

未来の社会インフラデザイン研究所活動実績報告書 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

所長 原田賢治

活動報告

○研究会議

静岡県を対象に地域社会を支える社会インフラの未来に向けてのあり方について、研究会を開催し議論を行った。地域社会にはさまざまな役割の社会インフラがあり、総体として社会を支えており重要な役割を果たしていることを確認・共有するとともに、未来に向けた防災（安全安心）、経済（産業、活力交流）、環境（カーボンニュートラル、グリーンインフラ）を持続的に確保されるための新たなインフラのあり方を産学官連携で検討を行った。未来に向けての「社会インフラ」を幅広い視野から再定義することとし、社会基盤（道路、鉄道、航空、港湾など）だけでなく、生活基盤（上下水道、電気、ガス、ゴミ処理、学校、公園、病院など）、自然環境（山、川、森林、水質、空気、生態系など）、制度・資本（教育、医療、財政、雇用、福祉、金融など）、地域の誇り（歴史、文化、伝統、コミュニティーなど）の要素についての総合的な視野を含めて、具体的地域・事業における検討を進めた。



研究会議の様子



研究会議の様子

○外部資金等

令和4年度ふじのくに地域・大学コンソーシアムの共同研究助成事業において、「南海トラフ大地震を対象とした静岡県内津波対策技術の開発研究～新材料、新構造による津波シェルターの利活用方法の検討～、中澤博志（静岡理科大学）、原田賢治（静岡大学）、梶原浩一（防災科学技術研究所）、2年間（2022-2023）」として採択され共同研究を実施した。

また、JST-RISTEXの社会技術研究開発事業「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（SOLVE for SDGs）」へ、静岡大学未来の社会インフラデザイン研究所及び静岡県危機管理部で共同提案を行い、最終選考まで残ったが採択に至らなかった。